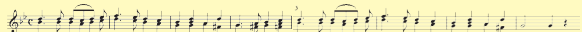


令和3(2021)年度の出来事から

公文書室長 広瀬茂久

長い目で見ると、地球上に誕生した莫大な数の生物種は、繁栄した期間の長短はあれ、すべてが絶滅している。ヒトを含め現在生きている生物も例外ではないだろう。絶滅の原因は地球環境の激変と考えていたが、それだけではなさそうと思わされる人類史上の一大異変が2022年2月24日に東ヨーロッパで起きた。コロナウイルスも予想以上に手ごわい；頼みの綱となっている抗体の中にはウイルスに結合した後、ウイルスの侵入を阻止するものと、逆に促進するものがあることが明らかになっていくからだ。特定歴史公文書等の整理をしながら、人類は侵略・制裁・報復のエスカレートで滅びるのか、ウイルスで滅びるのかを考えさせられることが多くなった。



主題であるローカルな話題に戻って、2021.4～2022.3の活動概要をお知らせします。

1. ^{けん}と ペリパトスの研杜に移転

公文書室は2021年11月に「大岡山キャンパス」から「すずかけ台キャンパス」に移転し、12月から自然豊かな環境で業務を再開しました。両キャンパスは電車で50分と距離がありますが、いずれも駅に近いので、交通の便には恵まれています。移転に伴う現地調査では、内閣府公文書管理課の肥高さんと島田さんに現地においでいただき有益なアドバイスを頂きました(2021年11月12日、コロナの勢いが衰えていた頃)。本館3階の跡地は数学系の図書室になります。

「すずかけ台」という命名はギリシア時代の哲学者プラトンに由来します。古代の学園には「すずかけ」の木が多く植えられ、プラトンは「すずかけ」の小道を散策しながら、木陰で弟子たちに講義したり、瞑想にふけったりしたと伝えられていること及び小高い丘陵地に位置することに因んで「すずかけ台」と名付けられたのです。アカデミアにふさわしい名称ですが、実際には「すずかけ」の木は駅前広場にしか植えられていません。キャンパスの将来を考えるとときには、より具体的なイメージを想定して『ペリパトス(Peripatos = 散策路)の研杜』という呼称も用いられています。図書館には教養書を揃えた「ペリパトス文庫」のコーナーがあり近隣の方々にも開放されています。高層ツインビルの入口ホールには「ペリパトス・ギャラリー」が併設され、大学会館では学生・教職員・近隣住民のための無料映画会



「ペリパトス・シネマ」が年に数回開催されています。

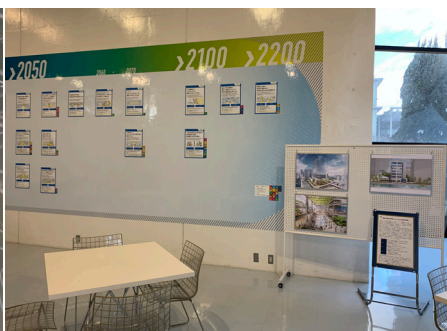
私たちが入居したG5棟(①)は、大学院総合理工学研究科(総理工)で使っていましたが、2016年の教育及び組織の大改革によって、総理工が姿を消し、スペースに余裕ができたために公文書室の移転先となったものです。総理工は日本初の「学部を持たない大学院」としての試みで、欧米の研究大学に見られる「大学院大学」のような繁栄を期待してスタートし、国内でもいくつかの大学の先例としての役割を果たしましたが、残念ながら日本では学生の人気を博すには至らず、全学の改組に合わせて41年間(1975.4～2016.3)に及ぶ活動の幕を閉じました。G5棟7階を公文書室仕様にリフォームして下さった施設整備課すずかけ台グループの皆さんに感謝します。

2. 移転先では野鳥観察も

移転に伴い、通勤の都合等でスタッフの入れ替わりがあり、新しく和田康義と竹内龍太郎が着任しました。両名ともICTに興味があり、デジタル化の波が押し寄せる中、頼も



② すずかけ台キャンパスのカワセミ



③ ミニ展示の様子 (2022.2.8 ~ 2.28)
田町地区再開発の完成予想図



④ ペリパトス・ギャラリー

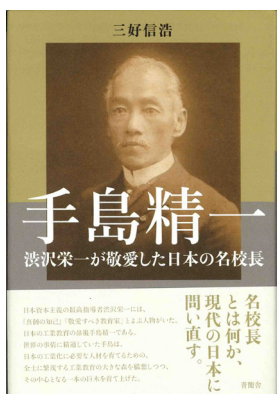
しく思っています。私たちの移転に付いてきたのではないかとと思うほどビックリする光景に出会いました。大岡山の「ひょうたん池」でよく見かけた「カワセミ」が、すずかけ台キャンパス中央部の調整池にもいたのです(②)。この池にはカモもよく飛来します。自然に恵まれているのはいいことですが、公文書室にとっては虫の侵入に悩まされそうです。

3. ミニ展示 & 新展示スペースとしてのペリパトス・ギャラリー

本館改修工事の影響で、2021年5月に生協の店舗も、同じ大岡山キャンパス内ですが、本館地下から百年記念館1階に移転し営業を再開しました。コロナ下でもほどほどの利用者があるのに目を付けて、生協脇にミニ展示のスペースを確保して、新しく生まれ変わろうとしている田町キャンパスの土地活用事業を紹介しました(③)。江戸時代の地図と現代の地図を見比べると、田町地区が江戸時代には海だったことが分かり驚きました。田町キャンパスの歴史に関しては資料館の「とっておきメモ帳」のNo. 3 & No. 9をご覧ください。田町地区の再開発では、現在の田町地区の建物はすべて取り壊され、大型の複合施設に生まれ変わります。田町キャンパスの土地活用(定期借地権)によって年間45億円の収益が見込まれるようです。うまく行きますように。すずかけ台では、今後、ペリパトスギャラリー(④)の一部を公文書室のミニ展示スペースとして利用していくこととなります。

4. 手島精一を現代に蘇らせる本の紹介

三好信浩(著)、『手島精一』— 渋沢栄一が敬愛した日本の名校長 —, 青簡舎, 2022



著者の三好信浩(89歳)先生は、本学とは直接的な関係は有りませんが、産業教育史の著名な研究者で、論文の他に多数の成書があり、それらの一部は全集としてまとめられている方です。主人公の手島精一(1850~1918)は、江戸・明治・大正を生きた教育者で、本学の前身校の創設と発展に貢献したのみならず、日本全国に工業学校を興すこと

に尽力しました。高潔な人格とも相まって、日本の工業教育の父と呼ばれています。これほどの人物が世間一般に広く知られていないのは、三好先生としては忍びないの思いから、人生最後の著作のつもりで、手島精一の評伝を纏めて下さいました。出版のタイミングとしては、NHKの大河ドラマ『青天を衝け』が佳境に入った頃を狙っておられたので、副題が「渋沢栄一が敬愛した日本の名校長」となっています。出版不況の折、なかなか出版社が見つからず、ドラマ完結後の2022年2月の出版となってしまいました。公文書室も写真や資料を提供し協力しましたので、ご一読をお勧めする次第です。

5. 外部の専門家による資料の整理・評価・活用

コロナ禍の状況下では公文書室が属する博物館は、基本的には、図書館の開館・閉館に合わせる形で運営してきましたが、公文書室は学内者と学外者を区別しない方針で運用しているために、本年度は窓口対応はせず、メールと電話による問い合わせのみにしました；図書館の場合は、コロナの勢いが弱まった時期には学内者のみに対し入館を許可する措置をとっていました。

電話やメールのみの対応となりますと、先方の希望する資料を見つけて、デジタル化されていないものであれば、写真撮影した上でメールやDropbox経由で届けなければならず、公文書室スタッフの負担はコロナ以前に比べ倍増した感じがします。利用者にとっては、この方がより便利なようで大変感謝されました。特に次のような外国の研究者からは心のこもった礼状を貰いました：景德鎮陶磁大学の古陶磁研究センター研究員、及び清華大学・東京工業大学合同大学院プログラム学生(コロナのために来日できず)。

私どもの特定歴史公文書等及び近い将来に公文書室に移管が予定されている資料の整理と評価に関しては、コロナの状況を見ながら、次の方々に実際に足を運んでいただいて作業をお願いしました。(1) 田坪賢人(大阪市大D2)：大坂の大工組のあり様及び都市社会の中での地域の工組の実態に迫る意味での古橋家文書の整理と価値の評価、(2) 沖縄県立芸術大学院生(D2)：本学の窯業学科で学んだ中国からの留学生の資料調査と評価、(3) 田村幸男(目白学園専務理事)：傍系入試関連資料の調査・整理、(4) 種村威史(国学院大学兼任講師)：手島精一関連資料の統合目録作成。

令和3年度(2021)に受け入れた特定歴史公文書等のリスト

法人文書ファイル名	作成又は取得者
情報活用IR室運営委員会	情報活用IR室
平成27年度労使関係	総務部人事課労務室人材育成G
平成22年度生存者叙勲	総務部人事課人事企画G
平成22年度死亡叙位叙勲	総務部人事課人事企画G
平成22年度紫綬褒章	総務部人事課人事企画G
平成22年度永年勤続者表彰	総務部人事課人事企画G
平成22年度東京都科学技術 功労表彰関係	総務部人事課人事企画G
平成22年度文部科学大臣表彰	総務部人事課人事企画G
平成2年度部局長会議	東京工業大学庶務部庶務課 庶務掛
平成2年度規則制定改廃	庶務部庶務課法規掛
平成2年度生命理工学部教授会	生命理工事務グループ
平成2年度生命理工学部学科 長会議	生命理工事務グループ
阪神淡路大震災 平成6年度	教務部厚生課厚生企画掛
東日本大震災関連	"総務部評価・広報課 広報・社会連携グループ"
平成2年度精密工学研究所教授会	精密工学研究所事務掛
平成2年度工業材料研究所教授会	工業材料研究所事務掛
平成2年度資源化学研究所教授会	資源化学研究所事務掛
平成20年度清華合同プログラ ム	国際部留学生交流課事業推 進グループ
平成22年度清華合同プログラ ム	国際部留学生交流課事業推 進グループ
平成22年度赴日予備教育	国際部留学生交流課交流推 進グループ
本館新営第一期工事写真 昭和6年3月～昭和7年10月	工務課
分析化学教室・現場写真 昭和6年2月～昭和6年9月	工務課
建築材料研究所新営工事・写 真 昭和7年9月～昭和8年3月	工務課
紡織工学科旧実験工場写真集 1・1 S10.7～	工務課
染料化学科其他実験及試作工 場新営工事・写真 紡織学科 実験工場新営工事・写真 昭 和9年12月～昭和10年7月	工務課
研究科学生誓書〔綴〕 昭 和二十三年度	[東京工業大学]

法人文書ファイル名	作成又は取得者
研究科誓書綴 昭和31年度 入学	教務課
研究科誓書綴 [昭和32～昭 和33年度入学]	教務課
研究科誓約書 昭和二十五年 四月入学	教務課
研究科誓約書 昭和二十七年 四月入学	[教務課]
研究科誓約書 昭和二十八 年度	教務課
研究科誓約書 昭和29年度 入学	教務課
選科生誓書綴 昭和二十五 年度	教務課
選科研究生誓書綴 昭和五年 度	東京工業大学 学生課
特別研究生誓書綴 昭和二 十七年度入学	教務課
学士試験願綴 昭和二十一 年度	教務課
公開講座単位台帳 昭和二十六年度	教務課
仕訳日記帳 [昭和15年4月 ～昭和18年3月]	東京工業大学 新聞部
学友会関係 [文化部 運動部 新聞部] 昭和29年度	教務課 学生係
学友会関係 [社会部他] 昭和 29年度	教務課 学生係
(学友会関係) 全学祭 昭和 29年度	教務課 学生係
(学友会関係) 全学祭 昭和 30年度	教務課 学生係
学友会 昭和30年度	学生係
高松宮殿下御成関係書類 昭 和十五年	博物館 (取得)
創立記念式典関係 [昭和四 年～昭和十五年]	博物館 (取得)
昭和29～37年度 文部省関 係	博物館 (取得)
評議会議事要録 昭和58, 60- H1年度	博物館 (取得)
生存者叙勲関係綴 平成元～ 6, 8～21年 春・秋	博物館 (取得)
紫綬褒章関係 平成13, 18, 19, 21年度	博物館 (取得)
永年勤続者表彰 平成20年	博物館 (取得)

公文書室 業務日誌（抄）

年	月	日	業務内容
令和3 (2021)	4	14	移転先 (G5-7F) のレイアウト及び工事概要について、施設整備課すずかけ台グループと打合せ
		6	9
	17		法人文書ファイル管理研修会 (Zoom)
	22		～7/8：各部局との法人文書ファイル移管関係打合せ
	7	2	～10/29：G5-7F 内装改修工事
		19	リベラルアーツ教育研究院多久和理実講師 _ 留学生資料調査のため来館
		29	～8/16：特定歴史公文書の炭酸ガス殺虫処理
		30	内閣府公文書管理課へ特定歴史公文書等の保存及び利用の状況報告に係る調査票を提出
	8	18	環境・社会理工学院佐藤由利子准教授、村松晶子研究員 _ 留学生資料調査のため来館
	10	12	発掘！東工大の研究と社会貢献 No. 7 「世界初！ナノファイバーの大量生産に成功」を刊行
		25	～11/11：移転作業
		29	岡本明 加藤科学振興会 常務理事 来館 _ Philips のフェライト特許に関する裁判資料寄贈 「名誉教授の研究」紹介コーナーを博物館の Web ページ上に開設
	11	12	内閣府公文書管理課による公文書室の所在地変更に伴う現地調査
		22	～3/31：田村幸男 目白学園専務理事 _ 傍系入試関連の資料調査
	12	1	公文書室移転 官報公示
		6	田坪賢人 (大阪市立大学 哲学歴史学専攻 日本史学専修 D2) _ 古橋家文書の調査と目録作成の準備 _1/18-2/28：本格調査
		15	管弦楽団長 合楽慧 来館 _ 管弦楽団の過去の活動調査
令和4 (2022)	1	12	地球惑星科学系3年 佐藤 隆 来館 _ 大岡山周辺の遺構調査 教養卒論「大岡山周辺の遺構について」(講堂の盛土一部削除 & 住民用地下道) 関連資料の閲覧
		2	1
	7		～2/28：ミニ企画展 _ 「田町地区の再開発がいよいよスタートします」
	3	1	事務支援員 竹内龍太郎・和田康義着任
		14	資史料等審査部会 (Zoom)
		31	「公文書室だより」No. 7 刊行

寄贈資料一覧 & 資史料館からのお知らせ

◆ 下記資料を寄贈いただきました (2021年4月から2022年3月受領分)。

寄贈者	資料名	寄贈者	資料名
尾木彰 (S31 機械)	学生時代の写真	蔵前工業会	蔵前ジャーナル (No. 1082-1089), 2022
中村 聡 名誉教授	総合研究館竣工記念品	文部省 大臣官房 総務課	文部大臣式辞集 (平成9年2月)
情報図書館課	入学・卒業記念アルバム 43冊他	石井 勢津子	ホログラム作品 (寄託 --> 寄贈) 11点
坂本 由美子 (卒業生の孫)	M40 卒業アルバム	東工大職組	原水爆禁止運動資料 (331点)
広報課	「H30 新聞記事」12冊	多久和 理実	梶雅範 講義録ファイル (54点)
未来産業技術研究所	精研 25&50 周年記念式典等の録画 DVD	旧原子炉研	核分裂実験装置 TITAN の看板
赤池敏宏 名誉教授	iPS細胞の培養基盤素材 (cadherin-coated) が商品化；カタログと参考文献	青簡舎	『手島精一』—— 渋沢栄一が敬愛した日本の名校長——

◆ 公文書室 (G5-7F, 705号室) 及び百年記念館 (2F, 企画展示室) で、「発掘！東工大の研究と社会貢献」、「資史料館とっておきメモ帳」を配布し、「note」にも掲載しています。「今月の一枚」も Facebook にアップしています。

東京工業大学公文書室だより 第7号 2022年3月31日発行

編集・発行 東京工業大学博物館資史料館部門公文書室

226-8503 神奈川県横浜市緑区長津田町 4259, G5-14 TEL 045-924-5501

E-mail centshiryouto@jim.titech.ac.jp URL <http://www.cent.titech.ac.jp/indexArchives.html>